

《山頂への登山道入り口付近(牧場との境界部)》

●つり橋から林道の山側はほとんどが国有林になっており、市民の森開園前はそこで杉・桧林の植林や間伐等の作業を行っていた。しかし、開園後はほとんど植林地の手入れはなされておらず、そのため現在は藪山(やぶ)のようになってしまう。

●開園前はこの付近からも木を伐りだしていたが、その材木はカブトムシの森につながる谷に沿って馬に挽かせて搬出していた。

●その当時の仕事はきついものだったが、日当は通常の会社員に比べるとかなり良かった。

《カブトムシの森付近》

●開園前までは、林道の終点となっていたカブトムシの森のC地区付近が、山から切り出した材木のトラックへの積み込み場所になっていたが、その作業の伐り方さんは東北からの出稼ぎの人たちで、また浮羽から来た馬方さん達がC地区の東屋付近(下の写真付近)に小屋掛けして馬と一緒に生活していた。



〈昔、馬方さん達の小屋があった所での記念撮影〉

【柏原付近の里山探訪】

午前中の市民の森探訪の後、日下部さんとの質疑応答を兼ねた昼食会を終えて、午後からは柏原地区の里山探訪を行いました。柏原地区の昔に関しては、石橋さんに色々教えて頂いたことをベースに、昔の空中写真を見ながら当時の里山の姿を各自で想像しつつ歩きました。

《花畑老人ホーム付近》

●昔はこの付近から油山牧場近くのトイノウ池まで通ずる里道があったが、今はがけ崩れ等のため荒れてしまっているとのことである。ただ、参加者の多くから、一度たどってみたいと言う意見が多く出された。

●老人ホームの東側に昔の^{まぐさ}秣山(入会地で今でも秣組合が残っているとのことである)があったということであるが、今ではその正確な場所はわからなかった。ただ、昔の空中写真でホーム直上部付近に広い草地が見られることから、この付近が秣山であったのではと皆で話し合った。

《山田地区付近》

●この付近には昔共有で使っていた水車があったそうだが、川の状況や建物等からおそらくここであろうという場所を見ることができ、また昔の農村風景を彷彿とすることができた。

●柏原地区は昔養蚕が盛んで、桑畑に囲まれていた花畑小学校では養蚕実習もしていたということである。その面影を残すように、今もマグワが路傍に残っており、その当時を実感することができた。

《柏原7丁目付近の旧馬車道》

●今の那珂川町につながる県道は、昔は馬車道であったそうだが、一部残っている旧道の道路脇に、安永7年(1778年)の庚申塔(中国より伝来した道教に由来するもので、外からの災いを遮る神として信仰されてきた庚申様を祀る石塔、これには猿を庚申様のお使いに見立てた「見ざる、言わざる、聞かざる」の三猿も掘られていた)を見つけることができ、昔の生活を実感を持って思い浮かべることができた。



〈旧馬車道沿いに残されている江戸時代の庚申塔〉

以上のように、地元の方のご協力により市民の森や柏原周辺の里山の昔を一部分ではあるが知ることができました。多大なご協力を頂いた石橋様、城戸様、日下部様に篤くお礼申し上げますとともに、この貴重な資料をベースにして今後何らかの記録として残しておきたいと思います。

(報告：松雪/柴戸)